

2014年 8月

留学先決定に至るまでの経緯

2014年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生

岡本 一秀

2014年夏からジョージア工科大学航空宇宙工学科のPhDコースに進学予定の岡本一秀です。大学院留学を決心してから合格に至るまでの経過を紹介させていただきます。

1. 出願決心にいたるまで

学部2年の進学振り分けで私はSpaceX社やVirgin Galactic社の宇宙旅行ビジネスに惹かれて航空宇宙工学科を選択しました。したがってアメリカで航空宇宙をやりたいという憧れはかなり前から抱いていたこととなります。留学を決心したのは就職活動中の修士1年の冬。「これからの時代はグローバルでタフ」が叫ばれる中で私は今後5年ほどの過ごし方として、アメリカでPhDを取るというのが「これからの時代を生き残る」のに最適だろうと判断しました。

2. 準備

アメリカに行くぞと決心したのはいいものの、立ち足はだかっただのが学部時代の壊滅的な成績。私は航空部という部活動に所属していました。グライダーという飛行機を操縦するのですが、筋力・体力はほとんど必要ないため運動不足に悩むという運動会らしからぬ部でありながら、くそ忙しいまじブラックやりがいに満ちあふれた部活でした。(よく混同されますが、鳥人間ではありません。) 通常であれば成績の悪い学生を救済するはずの出席点も、授業行っただけでどうせ寝学業の基本は自学自習として1週間合宿所生活というような感じだったのでむしろ足枷でした。部活動をやりながら学業も優秀な成績をおさめた先輩もいらっしゃいますが、私の場合は力及ばず学業は低空飛行を続けていました。

成績悪くても留学できないかなあと思って「大学院留学 成績悪い」で検索をかけ、次の2つの希望の光を見つけました。

希望の光1：教養の成績が悪くても専門で挽回できているなら大丈夫！

希望の光2：研究に関係ない授業の成績は悪くても大丈夫！

まず、希望の光1ですが教養時代は成績は悪くなく、むしろ専門に進んでからが崩壊していたのでアウト。よって私は希望の光2にすぎるとしかありません。航空宇宙工学は大きく制御・空力・構造・推進に分かれます。このうち私の研究分野は制御です。が、「可」。よって私は自力で道を切り開くしかありませんでした。

まず成績ですが、学部の成績は変えようがないので大学院の成績を全て「優」にして挽回することに。またフライトインストラクターの資格を取ってOBとして後輩の練習指導をしていたので、その指導経験がTAで活かせるし航空工学の実際的な知識があると、弱点を無理矢理いいように解釈し直しました。パイロットの資格を持つ学生は世界（特にアメリカ）に数多くいると思いますが、フライトインストラクターの資格までもってる人間はそうはいな

いはずです。米国で研究したいことにうまくつながるように日本での研究とインストラクターの経験を組み合わせ、説得力を持たせました。

航空宇宙工学の場合、TOEFLのminimumは高いところでも100だったので100を目標に勉強しました。しかし同時にすっかすかのCVをどうにかするため、学会に積極的に参加するようにしました。学会に出るからには研究成果を出さなければなりません。テストの成績は時間をかけて勉強すれば上がりますが、研究はかけた時間に比例して成果が出る訳ではない（私の場合）ので、TOEFL・GREの勉強との時間配分に苦労しました。最終的にTOEFLは5回も受けるはめになり、しかも100点に1点届かなかったので失敗していますが、CVのすっかすか度がマシになったので、しょうがなかったと思っています。

SoPはMITでPhDを取得された研究室OBを教授に紹介していただいて添削していただきました。また、FOS合格後は審査員の先生方からもアドバイスをいただきました。他にも研究室OBの方や現在留学中の学科OBの方々に見ていただきました。推薦状は卒論と修論について所属研究室の教授と准教授に依頼し、また卒業設計でご指導いただいた教授に3通目を依頼しました。

一般に大学院合格には奨学金を持っていると有利ですが、私の場合は必須だと感じていたので、準備は春先から始めていました。夏前に国際学会の準備に忙殺されたため応募したのは3つですが、FOSを含めた2つの奨学金から内定をいただきました。（同時に複数の奨学金から支援いただくことはできないので辞退しています。）また、残る1つも面接の連絡をいただきましたがFOS合格後でしたので辞退しました。今振り返ってもなぜ本番があんな結果なのに国内奨学金がこんな結果なのか不思議でなりません。

3. 結果

5校に出願し、3月末までに3校から

Thank you for applying to ○○○.

.....
Unfortunately,

You have my best wishes for success in your professional career.

Sincerely,
○○○”

といったグローバルなお祈りメールを頂きました。4校目のメールは4月第2週に来ましたが、一瞬でお祈りの1文を見つけたのでタフになれたと思います。

4月になって博士課程に進学したものの全く研究へのモチベーションが湧かなかった私は「こうなったら官僚になって日本を変えてやる」と心機一転。月末の国家公務員試験へ向けて猛勉強を開始しました。勉強すればするほど解ける問題が増えたのでとてもおもしろかったのを覚えています。

そんな猛勉強の日々を過ごしていた中の4/19未明、実家に帰省中だった私のもとにGeorgia Techから合格のメールが来ました。普通なら飛び跳ねて喜ぶのかもしれませんが、決意のかたかった私は「いや、俺もう官僚になるって決めたしな。ムニャムニャ」とそのまま寝ました。朝になって起きてから両親に「なんか合格来たけど行かないわぁ」みたいな報告をしたところ「アホかお前は」と一蹴され、「船井さんに報告と挨拶に行っ来て」と京都市の特急に乗せられました。（奇しくもその日がFOSの褒賞式でした。）褒賞式で留学したかった自分を思い出し、実家に戻ってからGeorgia Techに「行きます」とメールを送りました。

4. 振り返って

Georgia Tech側からのTA/RAやFinancial Aidのオファーはなく所属研究室も決まっていない状態での合格になりました。明らかに底辺からのスタートでなかなかつらい立ち位置ではありますが、教授の指導方針や予算についてあらかじめ情報を持った上で研究室選びができる位置にいるとも考えられるので、むしろ好都合だと捉え直しています。

最後になりますが、採用していただいた船井情報科学振興財団の皆様、応援支援いただいた先生方、先輩方、友人、そして両親には大変お世話になるとともに多大なるご迷惑ご心配をおかけしました。恩返しができるよう精一杯頑張ってまいります。



褒賞式にて。後列右端、当日朝の合格のため1人だけ胸に花と名札がないのが私。